


ドイツ連邦共和国		首都	ベルリン
 <p>ドイツを統一しようとする運動が起きたとき、その先頭に立った学生義勇軍の服装（黒マント、赤い肩章、金ボタン）に由来している。</p> <p>独立：1990/10/3 東西ドイツ統合 国連加盟：1973/9/13 政体：連邦共和制</p>	国 の 概 要	国土	面積 35万7,000 km ² （日本の94%） ヨーロッパ大陸のほぼ中央に位置し、地勢はおおむね平坦である。北部はハイデとよばれる氷食性の広大な北ドイツ平原、中部は森林性の丘陵、南部はアルプス山麓の高原とシュバルツバルトとよばれる森林に覆われた山地である。南東部には湖沼も多い。北部にはエルベ川、西部にはライン川、南部にはドナウ川が流れている。
		人口	8,270万人
		言語	ドイツ語（公用語）
		通貨	ユーロ
		気候	温帯に属し、北部は西岸海洋性、中部と南部は大陸性を示す。夏季は涼しく乾燥して快適な天候が続く。冬季は長く湿潤寒冷であるが1月の平均気温は0度前後である。
		民族	ゲルマン系ドイツ人 94%、トルコ人 2% ユーゴスラビア人
		宗教	プロテスタント 38%、カトリック 34% イスラム教 2%
教 育 制 度 の 概 要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> ・連邦制をとっているドイツでは、州により学校制度が異なる。 ・小学校4年生までは基礎学校「Grundschule」で、5年生からは成績や家庭の考え方などに応じて進路が分かれる。小学校の成績により、小学校の担任と学校（校長）が能力に適したその上の学校を決める。希望する進路や学校と違えば学校と協議しなければならず、実際には4年生の1学期の成績で、担任は進む学校を提案し、3月には進む先の学校に入学の申し込みを済ませて、秋からの新学期に入る学校は決まっている。入試制度はない。 ・基礎学校修了後は、Gymnasium、実科学校（Realschule）、基幹学校（Hauptschule）、総合制学校（Gesamtschule）などに分かれて進学する「分岐型学校制度」が採られている。 ・大学に行くことができる資格「アビトゥア」があり、1度合格さえすれば、一生使える資格である。 ・公立学校は大学まで無償（教科書は有償）である。 	


	<ul style="list-style-type: none"> ・シュタイナー学校は 12 年間、総合学校は 13 年間の一貫教育で、アビトゥアを受ける資格がある。
義務教育	<ul style="list-style-type: none"> ・6 歳から 15 歳までの 9 年間(一部の州は 6 歳～16 歳)である。 ・その年の 6 月 30 日までに満 6 歳になる者は、その年の 8 月 1 日に義務教育の第 1 学年に入学する。ただし、その年の 12 月 31 日までに 6 歳になる子どもも申請をすれば、入学テストを受けることができる。1～2 学年遅らせてもよい。その場合の進路も学校より説明される。幼稚園と相談してもう 1 年幼稚園に通ったり、Vorschule に通ったり、私立に入ったりのする。
日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・学校年度は 8 月 1 日～7 月 31 日である。 ・2 学期制を採っており、秋学期は 8 月 1 日～1 月 31 日、春学期は 2 月 1 日～7 月 31 日となっている。 ・授業は午前中で終了する学校が多いが、最近は午後まで行う学校も増えている。 ・小学校の科目は、宗教、ドイツ語、社会理科、算数、音楽、体育、図画工作、技術家庭である。 ・基礎学校 3 年生から英語があること、理科と社会科を合わせたような事実教授があること、宗教の授業（ベルリンでは選択、他の州では通常必修）があることが特徴である。午後にプロジェクト・デーという総合活動（遠足や環境学習など）がある。 ・総合制学校では、必修科目のほか、演劇、フランス語、ロシア語、ラテン語などの外国語、コンピュータなどの選択科目がある。選択の図工の授業では職業訓練を受けることもできる。 ・クラブ活動はほとんどない。
義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ギムナジウムには 44%、実科学校には 25%、基幹学校には 21%、総合性学校には 10%が進む。 ・大学進学にはギムナジウム又は総合制学校を卒業しアビトゥア（大学入学資格）試験に合格する必要がある。大学進学率は 36%である。 ・アビトゥアは 2 回までしか受けることができない。2 回とも落ちたら、もう受ける資格はなくなる。 ・義務教育修了後いかなる全日制の学校にも通学しない生徒

		には 18 歳まで定時制職業学校への就学義務が課される。
	就学前教育	・就学前教育は義務ではないが、3 歳未満の子は保育園、3～5 歳の子は幼稚園に通園する。保育園の就園率は 7%、幼稚園の就園率は約 90%である。
	その他	・放課後、13 時～14 時ぐらいまで、学校で子どもを預かってくれるシステムがある。子どもたちは宿題をしたり、保育者の下で遊んだり、時には工作をしたりする。 ・ドイツ語を母語としない子どもに対して、授業中の取り出し、放課後に特にドイツ語を教えてくれる「特別ドイツ語クラス」がある。
学 校 生 活	休業期間	・地方によって異なるが、夏季休業は 7 月～9 月、冬季休業は 3 月～4 月までである。春季、秋季休業もある。 ・長期休業は州によってその日程が違う。ドイツ国内すべてで休みを統一すると道路もホテルも混雑するので、ずらして休みにする。
	学級担任制、 教科担任制等	・教科担任制で、一人で 2・3 の教科を教える教師もいる。 ・クラスの世話役も一人いる。
	飛び級、落第の有無	・成績評価は通常夏休み前と 1 月に行われ、生徒たちに通知表が手渡される。評価は 1 から 6 までで、6 が 1 番よい評価である。4 までが合格とされ、5 や 6 の成績が多く、改善の見込みがないと判断されると落第することがある。 ・飛び級は少ないがある。
	教育内容の差異	・英語は 4 年生から学習し、フランス語・スペイン語・ラテン語など第 2・第 3 外国語として学習する。
	学校行事の特徴	・修学旅行は中学校、高校で行われる。
	給食	・授業時間は学年によって異なり、学校で昼食をとることができる。 ・給食がある学校は少ない。
	チャイムや号令	・小・中学校で、全ての授業の切れ目にチャイムが鳴らされる。 ・号令はない。
	教室における行動様式 等の違い	・全ての科目に宿題が毎日出される。
	校則	・小・中学校には制服や規則はない。 ・両親が認めたことはできるが、認めていないことはできない。

	保護者の授業参観、保護者会、PTA	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観はない。 ・PTA 活動はある。
	子どもの一日	<ul style="list-style-type: none"> ・7 時頃起床し、午前中は授業、昼食、場合によっては午後にも授業がある。 ・放課後はクラブ活動をしたり、友達と遊んだりするほか、部活動とは別に、サッカーやホッケーなどのスポーツクラブに所属している生徒もいる。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・日曜には店が開かないため、家族と美術館に行ったり、サイクリング等が多い。
生活習慣等	宗教上の忌避事項	<ul style="list-style-type: none"> ・特にない。
	指による数え方、計算方法の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・親指から数える。
	食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・米の代わりにじゃがいもを食べる。肉料理が中心で、魚は場所によって食べる。
	衣服住居の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部には、「ポーヌング」と呼ばれる集合住宅が多い。レンガ、コンクリート、石の家である。
	交通規則の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・車は右側通行である。自転車は決められた路線を走る。 ・路面電車が多い。 ・電車やバスでもきちんと並び、車内ではみんな静かにしている。ドライバーのマナーもよく、クラクションはほとんど鳴らさない。ウィンカーをあげると自然に道を譲ってくれる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・名前が1つ、2つ、時には3つある。名字は最後である。名前に「〇〇さん」をつけて呼ぶ。 ・ごみの分別、休日は静かに音を立てないなどの生活のルールはきちっとしている。 	

<参考資料>


- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・父なる国 ドイツ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ジュッセルドルフ日本人学校 大野 美紀
- ・水と緑の都より ドイツのくらしと文化 ハンブルク日本人学校 寺島 貴幸
- ・海外日本人学校勤務経験教員より
- ・留学生より

<p>ナイジェリア連邦共和国</p>  <p>緑は国の主要産業である農業を、白は平和を表している。緑・白・緑の3つの帯は、主要な3地域とそれぞれに住む部族を表している。</p> <p>独立：1960/10/1 英国より 国連加盟：1960/10/7 政体：連邦共和制</p>		<p>国の概要</p>	<p>首都 アブジャ</p>
<p>国土 面積 92万4,000 km² (日本の約25倍) ギニア湾の最奥地に位置する。中央のジョス高原と東部国境のアダマワ高原を除けば、海拔500mを越えない平坦地で、中央部を大河ニジェール川が南北に貫流し、河口に巨大なデルタを形成している。</p>			
<p>人口 1億3,150万人</p>			
<p>言語 英語(公用語)、ハウサ語、ヨルバ語、イボ語</p>			
<p>通貨 ナイラ</p>			
<p>気候 南部は高温多湿の熱帯雨林気候で5~10月の雨季には特に雨量が多く、マングローブが生い茂り熱帯風土病も多い。北上するにつれて乾燥し雨季が短くなる。北部はサバナ気候で、国境付近では乾燥気候となる。</p>			
<p>民族 スーダン系諸族(ハウサ族21%、ヨルバ族21%、イボ族18%、フラニ族11%)</p>			
<p>宗教 イスラム教50%、キリスト教40%、原始宗教10%</p>			
<p>教育制度の概要</p>	<p>学校体系</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校6年・中学校3年・高校3年・大学4年である。 	
	<p>義務教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校9年間が義務教育である。 ・その年の9月1日までに満6歳になる者は、その年の9月に小学校第1学年に入学する。 ・小学校は義務教育で、授業料は無料であるにもかかわらず、就学率は約60~70%と非常に低い。中学校は義務教育ではないこともあり、就学率はさらに低くなっている。 	
	<p>日本と比較した教育課程上の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的にはどこの学校でも英語による授業を行っているが、ヨルバ地区ではヨルバ語、ハウサ地区ではハウサ語、イボ地区ではイボ語と、現地民族語も使用されている。 ・学校年度は9月~翌年の6月ないし7月である。 ・3学期制をとっており、1学期は9月~12月、2学期は1月~3月、3学期は4月~6月ないし7月である。 ・民族の統一を促す教育が重視されている。 ・ラゴスの中高一貫教育をしている女子校では、授業は月曜日から金曜日まで行われ、高校に進学すると理科系か文化系のコースを選択することになっている。科目数は30ある。 	

	義務教育後の教育	・高校レベルからは实际的・専門的教育に重点を置いている。 ・連邦大学は平成 19 年 3 月現在 31 校ある。
	就学前教育	・就学前教育は義務ではない。対象は 2~6 歳で、私立の方が多く、信頼性も高い。費用は施設によって異なる。
	その他	・政府の教育振興策にもかかわらず、貧困層は子どもを学校に行かせず、小さいときから労働力として使う傾向があり、特に小さいときから学校に行かず農作業の手伝い等を行っている者が多い。 ・北部の地域では、女子が教育を受ける機会が限定されているので、女子だけのクラスや女子教員、女子への奨学金の提供によって女子の教育を促したり、早婚や妊娠による退学を防いだりという努力が続けられている。
学 校 生 活	給食	・私立の寄宿制の学校では給食制度のあるところがあるが、公立校では給食の制度はない。子どもたちは弁当（サンドイッチ）を持ってきている。
	子どもの一日	・自宅通学と学校の寮に寄宿している生徒がいる。 ・放課後はハンドボールやバレーボール、卓球などのスポーツをしたり、家や寮で宿題や読書をして過ごしている。
生 活 習 慣 等	言葉の指導面の留意事項	・日本語の学習では、「ウ」の発音が、巻き舌になってしまうことがある。
	食生活	・オクラはアフリカ原産で、シチューなどにして食べられている。
	その他	・日本については、技術が大変発展している国という印象を持っている。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の教育情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・世界 HOT アングル・・・・・・・・・・・・・・・・JICA
- ・ナイジェリアの教育と教科書・・・・・・・・文教大学教育研究所
- ・日本語指導教材の開発・・・・・・・・井上恵子

ネパール			首都	カトマンズ
 <p>三角を2つ重ねた珍しい国旗で、凶柄の月と太陽はヒンズー教のシンボルを表している。端の青色はネパール人の気持ちを背景の赤色は愛国心を表している。</p> <p>独立：1769/11/13 国連加盟：1955/12/14 政体：連邦共和制</p>	国 の 概 要	国土	面積 14万7,000 km ² (北海道の1.8倍) ヒマラヤ山脈南麓に位置し、国土の83%は山岳か丘陵地で、国土は標高5,000m以上の北部山岳地帯、600~5,000mのカトマンズ盆地を中心とする中部、300m以下でインドのヒンドスタン平原に続く南部に大別される。北部にはエベレスト、カンチェンジュンガをはじめとする8,000m級を含めて6,000m以上の高峰が240もある。	
		人口	2,710万人	
		言語	ネパール語(公用語) その他	
		通貨	ネパール・ルピー	
		気候	気温は標高によって大きく変化し、山岳部は高山気候、平地は温帯気候で、南部の低地には高温多雨気候も見られる。南西モンスーンの影響が強く、5~9月は雨が多い。11月~1月はほとんど雨が降らず乾燥している。	
		民族	ネパール人(リンブー族、ライ族、タマン族、ネワール族、グルン族など)	
		宗教	ヒンズー教90%、仏教5%、イスラム教3%	
教 育 制 度 の 概 要	学校体系	・小学校5年間(6歳~10歳)、中学校3年間(11歳~13歳)、高校2年間(14~15歳)、10+2(テンプラス・ツー)と呼ばれる後期中等学校、大学となっている。		
	義務教育	・いわゆる義務教育制度はなく「教育を受ける権利が保障されている」というもので、現在、小学校教育の無料化、教科書の5年生までの無料配付化が進み、都市部では中学校まではほとんど、高校もかなりの者が進学している。しかし、地方や山間部では、都市部ほどの就学率は得られていない。 ・その年の3月までに満6歳になる者は、その年の3月に小学校の1年生に入学する。		
	日本と比較した教育課程上の特徴	・学校年度は日本と同様に、4月~翌年の3月であるが、学期制はない。 ・小学校1年から英語が始まる。		
	義務教育後の教育	・高校(10年生)を修了した生徒を対象に「School Leaving certificate」と呼ばれる試験が全国一斉に行われるが、この		


		成績は大学への入学、公務員の採用試験の際に必要とされる。 ・大学はキャンパスと呼ばれ、ディプロマ・コース（学士）3年間とディグリー・コース（修士）2年間となっている。
	就学前教育	・保育園・幼稚園の教育は都市部では盛んになってきているが中流以上の家庭であり、地方ではほとんど行われていない。 ・幼稚園では、遊びながら、歌いながら英語を楽しく教えている。
	その他	・国公立より私立の学校の方が評価されている。公立学校はネパール語を教授言語として、ネパール政府の作った国定教科書に基づいて授業をするが、私立校は、英語を教授言語とし、インドや欧米の教科書をもとにした英語教科書で授業をする。そのため、富裕層の子弟は私立校や有名公立学校に行き、貧困層の子弟は設備のよくない公立校に行くという教育における階層分離が大きくなってきている。 ・就学率には地域差、男女間の格差が見られる。 ・公立校の教員の副業は認められていて、補修のアルバイトや出稼ぎに行くという例もある。郊外や地方だと兼業農家の先生が多く、農繁期には教師も生徒も休んでしまうことがある。 ・カトマンズには国際学校がある。
学 校 生 活	休業期間	・夏休みは6月頃に15日間で、冬休みは12月に1カ月間、国民の祭りが10月末に15日間ある。
	学級担任制、 教科担任制等	・小学校でも専科制だが、一人の先生がいくつも担当している場合が多い。
	飛び級、落第の有無	・小学校1年生から、学年の終わりに次の学年に進むかどうかの判定をする。
	教育内容の差異	・先生の講義を聞いて、ノートに写す。資料はコストがかかるので、配布しない。 ・私立の学校では、2年生で3桁の足し算引き算を学習している学校もある。4年生の社会科では、英文の教科書を使い、先生は英語と民族語（ネパール語）使い分けでの説明、7年生では、民族音楽の太鼓演奏の学習などをする。
	給食	・弁当持参が原則で、昼食をとり家に帰る児童が多くいる。
	チャイムや号令	・45分ごとにチャイムがなる。
	教室における行動様式 等の違い	・農村部では、1学年1クラスの学校が原則なので、教室に入りきれない場合は、校庭に座って勉強する学校もある。

	校則	・公立小学校の制服は、上着がうすい青のワイシャツ、ズボンとスカートは紺で、青いネクタイを着用する。
	保護者の授業参観、保護者会、PTA	・公立の場合、学校を管理するために、保護者を含む管理委員会を設立している。 ・保護者会やPTAはない。
	子どもの一日	・朝8時～9時の間に、朝食を食べて、10時～16時まで学校の授業がある。帰ってきて2時間くらい友達と遊んで、夕飯を食べて宿題をしてから寝る。中には、遊ばないで子守りをする子もいる。
	その他	・子どもたちは、水汲み、牛の世話、食事の準備の手伝いなど、家の用事が多くあり、毎日学校に来られない子どもが多い。そのため、勉強を途中で止めてしまう子どもがいる。また、経済的な理由でまったく学校に通えない子どもたちも見られる。
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	・公共の場や教育機関では通常公用語であるネパール語が使われるが、ネパール語を母語としない人口は半分以上いる。その言語の数は30種で、これがさらに方言に分かれている。観光ビジネスに携わる人の中には日本語を話せる人の数も徐々にではあるが、増えてきている。
	宗教上の忌避事項	・牛は神様だから、牛肉を食べてはいけない。
	食生活	・朝と夜はご飯中心にダル（豆のスープ）、野菜カレー（タルカリ）、辛い漬物（アツァール）などを食べる。昼はご飯以外の軽食である。 ・代表的な料理として「アルコ・ロティ」がある。じゃがいものすりおろしをたっぷり混ぜた生地をパンケーキのように薄く焼き、朝・昼・晩いつでも食べる。
	衣服住居の違い	・民族や地形や気候によって違いがある。普通、男性はドウラ・スルワル、女性はサリー・ブラウズを着用する。
	交通規則の違い	・鉄道はなく、バスを利用する。
	その他	・様々な民族が異なる言語・宗教・生活習慣・文化を持ちながら、互いに尊重・融和しあい暮らしている。民族間・宗教観の緊張がほとんどない。 ・人気の遊びとしては、ツウンギやカバルディがある。ツウンギは、一本のひもを何十個もの輪ゴムの真ん中に通して、そのひもの両端を結びと花の形をしたものになり、これをツウンギといい足でサッカーボールのようにリフティング

	<p>して遊ぶ。</p> <p>カバルディは中央にラインを引き、コートをつくる。そして、A・B、2つのグループに分かれる。A・Bの代表がくつを投げて表・裏で鬼を決める。鬼が大きく息を吸い込み「カバルディ」と言いながら、相手のコートで、敵にタッチする。敵は鬼が自分のコートに帰れないように邪魔をする。鬼が、自分のコートに帰れないまま息が切れたときは、鬼が退場し、帰れたときはタッチされた人が退場する。</p>
--	---

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国・地域の紹介・・・・・・・・SIRA キッズ
- ・教員はどこでも・・・・・・・・青年海外協力隊千葉OB会 阿由葉 綾子
- ・世界のこどもたち（ネパール編）・・在福岡ネパール王国名誉領事館 シャイマ サガル ラージュ
- ・ネパールの教育の現状・・・・・・・・神戸大学大学院、日本ネパール協会理事 畠 博之
- ・ネパールの生活・教育と未来・・・・・・・・和光大学総合文化研究所
- ・世界の郷土料理・・・・・・・・KDDI
- ・在日ネパール人より


<p>パキスタン・イスラム共和国</p>  <p>緑はイスラムの聖なる色で、国の繁栄を意味する。三日月と星の白は平和を、星は光明と知識を、三日月は進歩と発展を表している。左側の白い部分は少数民族だった東パキスタンの人々を表している。バングラディシュとして独立したが、国旗はそのままになっている。</p> <p>独立：1947/8/14 国連加盟：1947/9/30 政体：連邦共和制</p>		<p>国の概要</p>	<p>首都</p> <p>イスラマバード</p>
<p>国土</p> <p>面積 79万6,000 km² (2.1倍) 北西部から南東部に向かってしだいに高度が下がる地形である。北部にはヒマラヤ、カラコルム、ヒンズークシ山脈が東西に走り、カシミール地方にはK2、ナンガパルパットなど8,000m級の高峰がそびえている。西部のスレイマン山脈、南西部には、バルチスタン高原がある。東部のインド国境にはタール砂漠が横たわっている。国土のほぼ中央をインダス川が貫流し、大平原を形成している。南東部にはタール砂漠がある。</p>			
<p>人口</p> <p>1億5,790万人</p>			
<p>言語</p> <p>ウルドゥー語(公用語)、英語</p>			
<p>通貨</p> <p>パキスタン・ルピー</p>			
<p>気候</p> <p>国土の大部分は亜熱帯の乾燥気候で、北部は山岳気候、南部の平野では温帯モンスーン気候である。降雨は夏季に集中し、冬季にはほとんどみられない。6～7月には猛烈な砂嵐が吹く。</p>			
<p>民族</p> <p>パンジャブ人66%、シンド人13%、バシュトン人9%、バルーチ人3%</p>			
<p>宗教</p> <p>イスラム教スンニ派77%、イスラム教シーア派20%、キリスト教、ヒンズー教</p>			
<p>教育制度の概要</p>	<p>学校体系</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校(5～9歳)、中学校(10～12歳)、高校(13～14歳)で、高校卒業後、試験に合格すれば、カレッジさらに大学へと進む。 ・その年の4月1日までに満5歳になる者は、その年の4月1日に小学校の第1学年に入学する。 	
	<p>義務教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育制度がない。 ・公立の小・中・高校には希望すれば誰でも入学は可能であるが、経済的な理由から、子どもが貴重な労働力となっているため、就学率はきわめて低い。この傾向は地方に行くほど顕著である。 ・近年パンジャブ州政府やシンド州政府は、就学率を高めるため、地方在住者の子女を無償で入学できるようにした。特に、就学率の低い女子の就学をメディア等を通じ呼びかけて 	

		いる。
	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・学校年度は4月1日に始まり翌年の3月31日であり、3学期制である。1学期は4月8日～9月12日、2学期は9月13日～12月5日、3学期は12月6日～3月18日となっている。 ・公立の中学校以上はすべて男女が別になり、教師も男子生徒には男性、女子生徒には女性が指導することが多い。 ・都市部の私立校では男女共学が一般的でかなり開放的である。
	義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・試験の結果に基づいて学校の選択が行われる。 ・経済的な理由から大学へ進学する者は少ない。 ・医学部・薬学部・工学部などは非常に難関で進学率はかなり低い。
	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・就園義務はない。また、公立の幼稚園はない。私立の幼稚園では対象年齢を3歳～5歳としている。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・公立と私立の学校があり、私立は大都市を中心に、公立は各地方を中心に設置されている。私立は一般的に設備、教具が充実しており、教育内容や教師の質も高い。しかし、大部分を占める低所得者層の子どもたちは公立校に就学することもままならず、裕福な階層の子どもたちとの学力差は拡大するばかりで、国の社会制度にも大きく影響を与えている。 ・農村部では、小学校に通っている子どもの数は、就学年齢児の半数にとどまり、せっかく就学しても、その半数は中途退学するケースもある。子どもたち（特に女の子）が学校に行かない理由は、児童労働（家庭労働と農業で顕著）、文化的慣習、小学校までの距離の遠さ、学校での衛生施設の未整備（女子トイレがないなど）、安全確保の難しさ、教師一人当たりの生徒の数が多すぎる。
学校生活	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日出欠をとる。無断欠席を6日間行くと自動的に退学させられることがある。 ・年に4回テストがあり、特に進級テストは重要で、小学1年生でも合格しないと進級できない。 ・宿題は毎日出される。成績評価は親に通知される。
	給食	<ul style="list-style-type: none"> ・給食はない。
	校則	<ul style="list-style-type: none"> ・制服とバッジを着用する。

生活習慣等	宗教上の忌避事項	<p>・イスラム教徒がしてはいけないことは、お酒を飲むこと、豚肉や死肉を食べること、アラーやムハンマドの像を作り拝むこと、女性が肌や髪の毛を人前で出すこと、死者を焼くこと、不倫や姦通すること、賭け事をする事、イスラム教徒の女性がイスラム教徒以外の男性と結婚することである。</p> <p>・イスラム教徒がしなくてはならないことは、五行といい、①喜捨：貧しい人に自分の財産を分けること、②断食：ラマダン（断食）の月には、太陽の出ている間には飲食をしないこと、③お祈り：1日5回決められた時間にメッカの方を向いてお祈りすること、④巡礼：一生に一度はメッカにお祈りにいくこと、⑤信仰の告白：自分自身がイスラム教徒であると神に言うことである。神は唯一である。</p>
	食生活	<p>・インドと違ってガラムマサラを多用したカレーは種類が多い。ヤギをはじめ、ラムや牛の脳みそ入りのカレーもある。</p>
	衣服住居の違い	<p>・暑さに適した工夫のある民族衣装「シャルワル・カミーズ」を着用している。</p> <p>・カラチには、日本のような上下水道システムがない。だいたい週1回、地下タンクにいっぱいになるところの水がラインからやってくる。その水をポンプで屋上のタンクに汲み上げ、それを落として使う。足りない場合は、買わなければならない。</p>
	その他	<p>・日本については、パキスタンと友好関係にある先進工業国との知識や、国民が勤勉で礼儀正しいといった印象を持っている。</p>

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の教育情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・世界の子どもたち・・・・・・・・・・・・・・・・ユニセフ
- ・ありがとう パキスタン・・・・・・・・カラチ日本人学校 梅田 竜二
- ・ボポット ボポット シュークリア・・・・・・・・イスラマバード日本人学校 安田 幸典
- ・世界の郷土料理・・・・・・・・・・・・・・・・KDDI


<p>バングラデシュ人民共和国</p>  <p>緑がイスラムの宗教を、赤い丸は独立に流された血を表している。丸は風になびいても中央に見えるように少し旗竿側によっている。</p> <p>独立：1971/12/16 パキスタンより</p> <p>国連加盟：1974/9/17</p> <p>政体：共和制</p>		<p>国の概要</p>	<p>首都</p> <p>ダッカ</p>
			<p>国土</p> <p>面積 14万4,000 km² (本州の65%)</p> <p>西から流れるガンジス川と北東から流れるブラマプトラ川によって形成された世界最大のガンジスデルタ上の国で、大部分は海拔9m以下の低湿地である。</p>
			<p>人口</p> <p>1億4,180万人</p>
			<p>言語</p> <p>ベンガル語 (公用語)</p>
			<p>通貨</p> <p>タカ</p>
			<p>気候</p> <p>典型的な亜熱帯モンスーン気候、南西モンスーンの吹く、6～10月が高温多湿の雨季で、スコールとサイクロンが襲来し、国土の半分近くが水没することもある。世界有数の多雨地帯で年平均2,000～3,000mm、11～2月は北東モンスーンが吹き、乾燥する。</p>
			<p>民族</p> <p>ベンガル人 98%</p> <p>宗教</p> <p>イスラム教 88%、ヒンズー教 11%</p>
<p>教育制度の概要</p>	<p>学校体系</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校5年(1～5年)、中学校5年(6～10年)、高校2年(11～12年)、大学や専科短大(2～3年)となっている。 	
	<p>義務教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1990年小学校の義務教育化が法律で定められ、1994年には全国的に義務教育が確立した。2007年3月現在小学校の純就学率は80%に達している。 ・義務教育期間は5年間で、5歳から10歳までである。 ・義務教育は無償である。 	
	<p>日本と比較した教育課程上の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校年度は1月～12月で、公立校は2学期制をとっているが、私立校は3学期制のところもある。 ・ほとんどの学校は午前・午後に分かれている。1日の授業はだいたい5時間位である。 ・教授言語はベンガル語で、小学校から英語で教育する私立校もある。 ・小学校6年生から中学校2年生まで農業についての授業がある。中学校まで宗教と第2外国語(アラビア語、サンスクリット語)を勉強する。都市部の学校では、英語が小学校1年生から教えられている。 	
	<p>義務教育後の教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初等教育(1年生～5年生)、中等教育(6年生～10年生)を基礎としており、いずれも毎年行われる学年末試験に合格 	

		<p>しないと進級できない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8 年生を修了すると文科系と理科系に進路が振り分けられる。 ・ また、10 年生を修了した者は 1 回目の国家統一試験 SSC が受験でき、合格すると高等教育への入学資格が取得できる。ここで 2~4 年間教育を受け、修了した者は 2 回目の国家統一試験 HSC を受験でき、これに合格すると大学入学資格が取得できる。
	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園などの施設は大都市のみにあり、就園の義務はない。 ・ 対象年齢は 3 歳~4 歳である。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 15 歳以上の識字率は約 43%で、男女別では男子が 54%、女子が 31%である。
学 校 生 活	休業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏と冬にそれぞれ 1 ヶ月の長い休みがある。
	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出席率が 75%を切ると卒業できない。病欠の場合は家族の証明が必要となる。 ・ 試験は 4 月、8 月、12 月と学期末に行われる。
	教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラブ活動はほとんどの学校で行われていない。
	学校行事の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 月 21 日は独立につながる母国語運動に参加して犠牲となった人を追悼する国の記念日で、ユネスコも「国際母国語記念日」としたので、ベンガル語が民族のアイデンティティーの一つであることを確認し、合唱・民族舞踊などが行われる。
	給食	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給食はない。
	校則	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制服は学校により異なるが、ない学校が多い。 ・ 学習用具以外のものを学校に持ってくることは禁止されている。
	保護者の授業参観、保護者会、PTA	<ul style="list-style-type: none"> ・ PTA という組織はないが、SMC（スクール・マネジメント・コミッティ）がその役割を担っている。
	子どもの一日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放課後、クラブ活動をしたり、家の手伝いや宿題で忙しく過ごしたりしている。休日には、民族音楽や民族舞踊、スポーツなどの習い事をする。
	指による数え方 計算方法等の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親指を使って手で 1 から 20 まで数える。手のひら・第 1 関節・第 2 関節・第 3 関節=4×5=20

生活習慣等	食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・1日3食で、朝はほとんどパンとバターを食べる。昼食と夕食は特にご飯、魚、肉、野菜のカレーで、手で食べることが一般的である。食べ物を一枚の皿にあわせてのせる。 ・ライチ、マンゴー、ジャックフルーツなどの果物が豊富である。
	交通規則の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・リキシャ（自転車タクシー）、ベビータクシー、バス、トラック、乗用車等がひしめき、交通渋滞が激しい。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部は貧富の差が激しく、使用人を何人も雇って豪邸に住む人もいれば、物乞いなどをして路上生活をしている人も多い。田舎では、農業を営みながらのんびりと生活している。 ・ジャンケン（じゃんけん）は、日本と違い、「裏・表」に似た方法で勝ち負けを決める。手のひらを表と裏に返して、少ないほうを出した人が抜けていく。最後に二人残ったら、誰かがもう一人入って、勝者を決める。 ・カナマチはジャンケンで負けた人が鬼になり、目隠ししたまま他の人を捕まえる遊びで、鬼は捕まえた人の名前を言って、正しい名前を言えたら、捕まえられた人が次の鬼になる。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・教育事情あの国この国・・・・・・・・・・・・・・・・全教研
- ・世界の国・地域の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・SIRA キッズ
- ・バングラデシュに暮らして・・・・・・・・ダッカ日本人学校 森 泰誠
- ・福ダッカ通信・・・・・・・・・・・・・・・・ダッカ日本人学校 福田 哲郎
- ・留学生より

フィリピン共和国		
 <p>白い三角はフィリピンの自由を、3つの星はルソン、ミンダナオ、ピサヤの主要な3つの島、8条の光をもつ星はスペインから独立したときの8つの州を表している。白は平等を、青は平和を、赤は勇気を表している。戦争が始まると天地を逆にし、赤を上にし、国民の勇気を奮い立たせるといわれている。</p> <p>独立：1946/7/4 米国より 国連加盟：1945/10/24 政体：共和制</p>	国の概要	首都 マニラ
		国土 面積 30万km ² （日本の0.8倍） アジア大陸の東南に位置し、ルソン、ミンダナオなど大小7,000以上の島々からなる。環太平洋造山帯に属し、山がちな地勢で活火山が多く、地震も発生する。海岸にはサンゴ礁が発達し、群島の東側にはフィリピン海溝が南北に走っている。
		人口 8,310万人
		言語 フィリピン語（国語）、タガログ語、英語
		通貨 ペソ
		気候 高温多湿の熱帯モンスーン気候、南西モンスーンが吹く5～11月が雨季で、スコール性の雨が降り台風の襲来も多い。南部のミンダナオ島は熱帯雨林気候である。
		民族 マレー系のセブアーノ90%、中国系、スペイン系、少数民族
宗教 カトリック 81.04%、イスラム教 5.06%、福音クリスチャン 2.82%、フィリピン独立教会、イグレスシア・ニ・クリスト、他のキリスト教派など 11.08%		
教育制度の概要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園はなく、幼稚園は3～5歳、初等教育は6～12歳で6年間、中等教育は13～16歳の4年間で、日本の中学校・高校にあたる。高等教育（大学）は4～8年間である。
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の6年間(6歳から12歳まで)である。 ・中等教育の公立校は無料で授業が受けられる。
	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は学校によって少し違うが、午前7:30～11:30(10:00～10:30休憩)、午後13:30～17:30(15:00～15:30休憩)である。午前・午後の2部制のところもある。 ・公立学校には、部活動(クラブ)はないが、私立にはあるところもある。 ・6:30に国旗を掲げて、校歌を歌う。
	義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・中等教育の公立校は無料で授業が受けられるようになっている。 ・ほとんどが進学しない。 ・大学に進学する生徒は、30%程度で、そのうち、卒業でき

		るのは 75%である。
	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園（2 年間）で、公立と私立があり、最近は通う子が多い。裕福な子どもしか行けない地域もある。 ・幼稚園では、昼寝はなく、読み書きや英語も教える。 ・0 歳～2 歳までは、デイケアと呼ばれる場所で 10:00～12:00 まで過ごしたり、3 歳からは保育園のようなところで過ごしたりする場合もある。 ・祖父母に世話してもらうことも多い。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育終了後、仕事はあまりなく、マニラ等の都市部では飲食店への就職が多い。公務員を目指す若い人は多い。 ・鉛筆や消しゴムなどの学用品が高いので、買うのが大変である。 ・人口増加や財源不足に伴う教室や教科書の不足、教員の海外流出や教員不足などによる基礎学力の低下、貧困などによる生徒中退の増加などの課題がある。
学 校 生 活	休業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みは 4・5 月で、冬休みは、12 月 15 日から 1 月 1 週目までである。 ・新学年は 6 月から始まり、3 月までである。
	学級担任制、 教科担任制等	<ul style="list-style-type: none"> ・初等は学級担任制で、中等は教科担任制でありホームルーム担任がいる。初等の中には、4 年生から算数・理科・音楽は専科の先生が指導するところもある。 ・教師が足りなく、1 担任が 2 教科くらい受け持つ。 ・通知表は年 4 回渡される。2 学期制なので、1 学期 2 回、2 学期 2 回である。教科及び行動の記録を数字（1・2・3）で表す。年 3 回で%で表す学校もある。
	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・試験にパスすれば、飛び級できる。トータル的に優秀でなければならない。 ・学年末試験にパスできず、追試にもパスできなかった場合は落第となる。英語・数学・理科の評価をすべて落とすと落第になる。 ・欠席が多い場合は落第になる。
	教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> ・初等は、フィリピン語（国語）、算数、理科、社会、音楽、体育、美術、園芸（ガーデニング）を学習する。 ・中等は、国語、文学、数学、経済、歴史、理科、音楽、体育、美術、園芸を学習する。3・4 年はスペイン語も学習する。

	<p>家庭科、職業教育を学習するところもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 1 年から英語の勉強をする。 ・水泳指導はない。 ・教科書は 2 人に一冊支給され、副教材はない。
学校行事の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校は遠足があるが、宿泊することはない。高校は修学旅行がある。 ・体育祭は 2 年に 1 回行うが、日本の運動会のようなものではなく、スポーツ大会である。1 日目はセレモニー、2 日目はトーナメントのゲーム、3 日目はカーニバルというように 3 日間続けて行う学校もある。 ・音楽祭は毎年行う。 ・クリスマスのオーナメントのコンテストがある。クリスマス会でプレゼント交換をする。 ・1~6 年生まで、芝居をする会がある。 ・始業式・入学式・終業式は行わない。 ・卒業式の時、成績優秀者を表彰する。小・中・高校一緒で行い、1 日ばかりである。終了後、おやつなどを食べて楽しむ。 ・Dr、ホセリサル（フィリピン独立の英雄）をたたえる行事がある。
給食	<ul style="list-style-type: none"> ・弁当を持参したり、食堂で買ったりする。自宅に帰って食べることもある。おやつも売っている。 ・おやつは休み時間（10:00）に食べてもよい。
チャイムや号令	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイムは授業の始まりと終わりに鳴る。ブザーのところやガスボンベみたいなものをたたくところもある。 ・授業が始まる時、先生が入ってきたら、リーダーが号令をかける。
教室における行動様式等の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・長机に 2・3 人ですわっている教室が一般的である。 ・1 クラスの人数が多く（50~60 人位）教室の後ろまで机や椅子がびっしり入っている。 ・宿題の量は学校によって違う。 ・教師は勉強の時のみ指導する。休み時間は 5 人以上のグループをつかって遊ぶ。小・中・高校が一緒の敷地内にあり、校地内のけんかは厳禁とされている。
校則	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園から大学まで制服がある。 男・・・上は白のワイシャツ、下は紺か黒の半ズボン・長


		ズボン 女・・・上は白のブラウス、下は紺のスカート ・アクセサリーや髪型は自由で、ピアスも許されている。 ・靴やかばんも自由である。 ・登校時間を過ぎると門が閉まり、中に入れない。
	保護者の授業参観、保護者会、PTA	・授業参観がある学校とない学校がある。 ある場合・・・年に2～3回あり、多くの父兄が参加する。 ・保護者会・PTAの集まりも年2回位ある。夜、行われる学校もある。 ・個人面談は、問題を抱えた生徒のみ、行われる。保護者の悩み相談は担任とガイダンスカウンセラーが対応する。
	子どもの一日	・月～金曜日は学校に行き、土曜日は家の手伝いをする。日曜日は家族揃って午前中は教会に行き、午後は家族で過ごす。 ・6時に起床し、午前中か午後どちらか学校に行き、半分はクラブ活動か自由時間となる。 ・夕食は早めで、就寝も早い。 ・学校が終わったら、まっすぐ家に帰り、すぐに宿題や授業の復習をする。バスケットボールやテレビゲームで遊ぶ子どももいる。 ・勉強でわからない点があると、友達や教師に相談する。最近塾に行く子どもも見られるようになった。 ・休日は、家の手伝いをしたり、テレビを見たりして過ごすことが多い。 ・ピアノ・ギター・ダンスなど習い事をする子もいる。 ・子どもだけの外出は基本的に禁止されている。 ・朝早く起きて、水を汲んだり、掃除をしたりする。
	その他	・一般に風呂がなく、朝一番に仕事をして、シャワーを浴びて登校する子どもも見られる。
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	・教科書及び学校での会話は英語で、家庭ではタガログ語を使っている。 ・日本語の学習では、「ツ」と「ス」と「チュ」の区別がつかない、「ウ」と「オ」を混同してしまうことがある。
	指による数え方 計算方法の違い	・人差し指から数える。 ・手をグーにして、小指から順に立てて1、2・・・と数える数え方もある。 ・+、-の計算で10のまとまりはつくらない。

	<ul style="list-style-type: none"> ・割り算のしかたが違う。
食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・主食は米で、副食には、塩辛、さつまいもの葉やかぼちゃなどを煮たり、炒めたりする。マンゴーの漬物（酢の物）やスープ（魚の干物だし）も食べる。 ・野菜はあまり食べず、果物を食べることが多い。 ・生ものは食べない。 ・手でまるめて、口に運んで食べる。 ・バナナは生食の他、加熱して食べる種類があり、酢豚やミリエンダという、揚げて砂糖をまぶしたお菓子もある。串にさして屋台で売っている。
衣服住居の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・家はレンガ・コンクリートや木造が多い。壁が竹になっている家もある。 ・高床式で、下で鶏を飼ったり、いろいろな作業したりする。 ・家はあまり広くなく、大家族で住んでいる。 ・一年中暑いので、男性はTシャツ、女性はノースリーブが多い。（半そで） ・室内は土足で、浴室とトイレは一緒になっている。
交通規則の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・車は右側通行で、センターラインや信号はあまりない。信号は縦型である。 ・地下鉄はない。 ・バス、ジープ、サイドカーが多く、電車はほんの少しである。 ・路線バスはあるが、バス停はなく、手をあげれば乗ることができる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・上下関係が厳しく、1歳上でも尊敬の念、敬意を表す。 ・友達同士では、親しくなるとニックネームで呼ぶことが多い。 ・男子にバロン（グ）、女子にバラサン（グ）と呼ぶことも多い。 ・都市部の学校では、携帯電話が普及していて、生徒たちも約80%が所有している。学校でも使用が認められている休憩時間や放課後には、携帯電話を使って頻りに友人や両親とメール交換をしている。 ・じゃんけんは、「ジャンク アンド ポイ」といい、日本と同じように、石（パトォ）とはさみ（グンティン）と紙（パペル）で勝負します。石ははさみに勝って、はさみは紙に勝

		って、紙は石に勝ちます。掛け声は「ジャンク エンド ポイ、 ハーリ ハーリ ホオイ、シーノ アン マタロ、シヤァ アン ウンゴオイ」と言います。
--	--	--

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・フィリピンの教育事情・・・・・・・・・・・・・・・・CLAIR
- ・おもしろジャンケン・・・・・・・・・・・・・・・・日本アセアンセンター
- ・日本語指導教材の開発・・・・・・・・・・・・・・・・井上恵子
- ・世界の郷土料理・・・・・・・・・・・・・・・・KDDI
- ・日本語指導担当教員より（4名）
- ・海外日本人学校勤務経験教員より
- ・在日フィリッピン人より

ブラジル連邦共和国			首都	ブラジリア
 <p>緑は豊かな森林資源を、黄は鉱物資源を、青い円は天体を表している。27個の星は首都と州の数で、中央の帯には「秩序と進歩」と書かれている。</p> <p>独立：1822/9/7 ポルトガルより 国連加盟：1945/10/24 政体：連邦共和制</p>		国の概要	国土	面積 851万4,000km ² （日本の225倍） 世界第5位の面積をもつ。最北部にはギアナ高地がある。北部には世界最大の流域をもつアマゾン川が東流し、セルバとよばれる原生林が生い茂る低湿地を形成する。中部から南部にかけてカンポとよばれる草原で覆われたブラジル高原が広がっている。
			人口	1億8,640万人
			言語	ポルトガル語（公用語）
			通貨	レアル
			気候	アマゾン流域は熱帯雨林気候で降水量は2,000mm以上である。ブラジル高原はサバナ気候で、5～8月は高温乾燥となる。南部は温帯気候、海岸平野は温帯から亜熱帯気候である。
			民族	ヨーロッパ系（ポルトガル人、イタリア人、スペイン人）53%、ムラート（白人と黒人の混血）22%、メスティーソ（白人とインディオの混血）12%、アフリカ系11%
			宗教	カトリック80%、プロテスタント、アフリカ起源の宗教、ユダヤ教、仏教
教育制度の概要	学校体系		<ul style="list-style-type: none"> ・初等教育（小学校と中学校に値する）は6～10歳の5年間、11～14歳の4年間の9年間で、高等学校は15～17歳の3年間である。 ・師範学校、職業学校もあり、大学は3～6年間である。 ・公立学校の授業料は無料である。 ・都市部には私立学校も多い。 	
	義務教育		<ul style="list-style-type: none"> ・初等教育の9年間が義務教育期間である。 ・その年の7月31日までに満6歳になる者は、その年の2月20日に義務教育の第1学年に入学する（各州によって若干異なる）。6歳からの入学率は81%にとどまっているが、義務教育全体の就学率は98%である。 ・落第制度や経済的に働かなければならないという実態などから、義務教育修了者率は国民全体の54%である。また、退学率は8.3%である。 	

<p>日本と比較した 教育課程上の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校年度は 2 月 20 日から 12 月 22 日である。 ・ 2 学期制で 1 学期は 2 月上旬～7 月上旬、2 学期は 8 月上旬～12 月上旬となっている。 ・ ほとんどの学校に午前部・午後部がある。また、働きながら学ぶ夜間学校の制度もある。夜間の部には大人もいる。 ・ 学校は月曜～金曜日までの週 5 日制で、授業時間は 1 日 4 時間である。 ・ 年間授業日数約 180 日、年間授業時数約 720 時間、週授業時数約 20 時間である。 ・ 授業の 1 単位時間は 40～50 分で、休憩時間は 1 回だけ、30 分である。この間におやつを食べる。 ・ 授業時数は、日本と比較すると、音楽・図画工作・技術家庭が少ない。特別活動はなく、宗教の時間がある。 ・ 公立学校は施設が不足気味で、体育館やプールのある学校はほとんどない。
<p>義務教育後の教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高等学校は 15～17 歳までの 3 年間で、普通科と専門科がある。一般に私立学校の場合、専門科の方がレベルが高く、大学進学率も高いといわれている。電気・電子・会計・経営技術・データ処理・師範などの分野がある。 ・ 一般大学は 18～21 歳までの 4 年間(医科系は 6 年間、工科・法科は 5 年間)である。大学には単科大学と総合大学がある。 ・ 高校への進学率は当該年齢人口の 30%に満たない。高校 1 年に入学する生徒のうち、75%が卒業する。 ・ 大学生の数は総人口の 1%程度である。大学機関は全国に 1, 180 校あり、その 80%が私立、残る 20%は公立で、さらに連邦立・州立・市立に分かれている。 ・ 公立の大学は無料であるため、競争率が非常に激しく、合格できなかった場合は、翌年再度挑戦するか、学費の安い私立大学に進むことになる。
<p>就学前教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就学前教育は義務ではない。 ・ 公立の幼児教育の学校は少なく、ほとんどが私立であるが経費は高く、裕福な者しか通えないのが現状である。 ・ 保育園が 0～3 歳、幼稚園が 4～5 歳の 5 年間である、内容は遊戯や歌などで、午前の部と午後の部に分かれている。小学校入学前の 1 年間は絵を描いたり、文字の読み書きなどの学習をしたりする。

学 校 生 活	休業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業は12月～2月（約50日間）、冬季休業は7月～8月（約30日）である。 ・休業中の宿題や登校日はない。 ・学年は2月または3月に始まり、2学期制である。
	学級担任制、 教科担任制等	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校は学級担任制、中学校では教科担任制である。
	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・落第制度があるため、年齢の異なる子どもが同じ教室で学ぶ光景も見られる。 ・年間の欠席日数が授業日数の25%を超えると出席日数不足で落第となる。また、成績による落第制度もある。 ・落第は小学校1年生からあり、進級できず、学校に行かなくなる児童もいる。 ・飛び級は可能であるが、あまり行われていない。
	教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムは教育省や州教育局の規定に従って実施する。 ・教育法が改定されてからは、全国的に共通する国語・社会科（地理と歴史）・算数・理科・外国語（英語・スペイン語など）の他に、各地域の特徴を取り入れた科目など、児童生徒の日常生活に関連した身近なテーマが導入されている。 ・体育は、午前・午後の部では義務づけられているが、夜間の部では学校の主旨による。 ・音楽、美術、水泳等は学校ではなく、クラブ（クルーベ）で学ぶことが多い。 ・算数の割り算の方法が日本と異なる。 ・ポルトガル語で百のことを「セン」というので、日本語の「千」と間違えやすい。 ・清掃活動はない。
	学校行事の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業式と6月のお祭り(フェスタジュニーナ)をすることが多い。 ・運動会はないが科学発表会を行う学校がある。
	給食	<ul style="list-style-type: none"> ・給食がある。給食代は国立教育促進ファンドより支給され、各市庁によって管理・配給される。メニューも各市庁の学食委員会（学校・教師・父母の代表者）と栄養士によって決められる。なるべく、現地の農作物を使ったもので、各地の食生活に近く、加工が最小限に抑えられたものが望ましいとされている。
チャイムや号令	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の区切りにチャイムがなる。 	

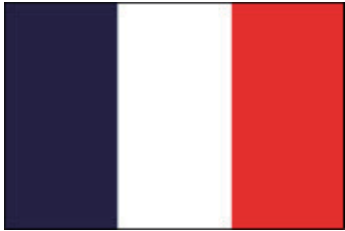
	<p>教室における行動様式等の違い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は概ね、内容の確認、解説(本読み)、質問、テストという流れである。質問や発言は挙手によらず自由に行うことが多い。 ・宿題は多く、授業と同様の重みを持っていることもあるので、宿題をしていかないと授業についていけなくなる場合もある。
	<p>校則</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・服装は全ての学校ではないが、制服が採用されている。 ・私立学校では制服があるが、ジャージ(運動服用)が多い。 ・女性は生まれてすぐピアスをすることが多い(お守りのように思っている)。 ・短すぎるスカートや体にぴったりしたシャツを着ていると教師に注意される。
	<p>保護者の授業参観、保護者会、PTA</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師、保護者、生徒、職員で構成される学校運営審議会があり、お祭りの収益金の使途、教師や生徒に関する問題などを審議する。
	<p>子どもの一日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・下校後、宿題を行い、TV、TVゲーム、サッカー、自転車などで遊ぶ。特に、サッカーがさかんで、小さな子から大きな子まで一緒になって、1個のボールを夢中になって追いかけている。将来、サッカー選手になりたいという夢を持っている子も多い。 ・外国語、音楽、スポーツ等のクラブに通う子どもがいる一方で、働く子どももいる。
	<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の給与は非常に安く、複数の学校を掛け持ちする教員がほとんどである。教師は自分の受け持つ授業のみが勤務時間で、授業が終わると帰宅する。
<p>生活習慣等</p>	<p>言葉の指導面の留意事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをよくする。あいさつは握手、肩を叩き合ったりすることもある。 ・感謝の言葉はちょっとした好意や手間に対しても使われる。 ・日本語の学習では、「ツ」と「ス」と「チュ」の区別がつかない、「ハ行」の子音が脱落してしまうことがある。
	<p>宗教上の忌避事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特にない。
	<p>指による数の数え方 計算方法の違い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小指か人差し指から数え始める。 ・割算の方法が日本と異なる <p><例> $125 \div 5 = 25$ $125 \mid 5$</p> $\begin{array}{r} 125 \mid 5 \\ -10 \quad 25 \\ \hline 25 \end{array}$

	-25 0
食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食はコーヒーとパン程度。昼食は2時間程度かけ、ゆっくり楽しみながら食べることが多い。夕食を食べた後、夜食を楽しむこともある。 ・代表的な食事は、ご飯、フェイジョン（豆料理）、肉です。 ・「いただきます」のように食事の前に言う言葉はない。
衣服住居の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・制服を決めている学校もあるが、例えばジーパンにTシャツといった程度のこともある。帽子を被ることは比較的少ない。 ・住居は西洋式で室内も土足である。
交通規則の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・車は右側通行。ほとんどの道路が一方通行である。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的には、ファーストネーム（+ミドルネーム）+名字1（母方）+名字2（父方）であるが、日系人の場合は、ブラジルのファーストネームと日本語のファーストネームがあり、ファーストネームが2つあることが多い。 ・名前を呼ぶときは、名字では呼ばず、名前を呼ぶ。 ・子どもに人気の遊び「ケイマダ」は日本のドッジボールとほぼ同じである。 ・じゃんけんは、手の形は日本と同じで、「バモス！ペドラ、チゾウラ、パベル」と言いながら手を出します。ペドラはグー、チゾウラはチョキ、パベルはパーのことです。 ・パパタケンチはみんなで輪になり、熱い（バタタ）ジャガイモ（ケンチ）に見立てた物をとなりの人に手渡していきます。鬼になった人は、後ろを向いて「ケンチ、ケンチ、ケンチ……」と言い続け、最後に「ケイモ」と叫びます。その時、物を持っていた人は輪を抜けていきます。 ・日本については大半の生徒が「技術が発展し、豊かな文化をもつ国」という印象を抱いており、いつか日本に行ってみたいという生徒も多い。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・日本語教材「にほんごをまなぼう」の指導書資料・・・・・・・・文科省
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス

- ・世界の国・地域の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・SIRA キッズ&ジュニア
- ・サンパウロ日本人学校（月刊誌「海外子女教育」）・・・・・・・・・・海外子女教育振興財団
- ・ブラジルの子どもたちの学校・家庭・暮らし・・・・・・・・・・学研「ハローワールド」
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・日本語指導教材の開発・・・・・・・・・・・・・・・・・・井上恵子


フランス共和国			首都	パリ
 <p>フランス革命のとき、革命軍の帽章の色からつくられ、青・白・赤の3色旗は自由・平等・博愛を表している。</p> <p>独立：843 フランク王国 国連加盟：1945/10/24 政体：共和制</p>		国 の 概 要	国土	面積 55万2,000 km ² (日本の約1.5倍) ヨーロッパ大陸の西部を占める大西洋と地中海に挟まれたほぼ六角形の本土とコルシカ島、5つの海外県(グアドループ・マルチニク・ギアナ・レユニオン・サンピエールミクロン)、およびいくつかの海外領土からなっている。全土の64%は平地かなだらかな丘陵地である。スイス、イタリア国境にはアルプス山脈とジュラ山脈、スペインとの国境にはピレネー山脈が走る。中央部は北からパリ盆地、アキテーヌ盆地、中央山塊となっている。水量豊富な河川が多く、セーヌ川はドーバー海峡、ロアールとガロンヌ川は大西洋、ローヌ川は地中海に注いでいる。
			人口	6,340万人
			言語	フランス語(公用語)
			通貨	ユーロ
			気候	全般に温和な温帯気候で、北部と西部は西岸海洋性で気温の年較差が小さく雨量も多い。中部と東部は大陸性の影響で冬は冷え込む。南部は地中海性で夏は高温乾燥、冬も温暖であるが、ときおりミストラルと呼ばれる冷たい風が吹く。
			教育制度の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・初等教育(小学校)5年、前期中等教育(中学校)4年、後期中等教育(高校、専門学校、技術学校)3年、大学(学士号)3年である。 ・小学校1年(6歳)から中学4年(16歳)までの9年間は義務教育である。 ・その年の12月31日までに満6歳になる者は、その年の9月1日に義務教育の第1学年に入学する。
日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・学校年度は9月1日より翌年の8月31日となっており、3学期制を採っている。1学期は9月～12月、2学期は1月～3月、3学期は4月～6月となっている。 ・土曜・日曜が休みで、水曜又は木曜が半日である。 ・近年2年生から外国語が必修となった。 ・書くことを伴う宿題は法律で禁じられている。 			

		<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動はない。
	義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・高校 3 年修了時に大学入学資格試験(バカロレア)が実施される。 ・なお、高等教育機関としては、大学のほかにグランゼコール、高等専門学校などがある。 ・前期中等教育を終了しコレージを卒業した生徒は、希望によってリセと呼ばれる国立の学校(高校)で引き続き無償の教育を受けることができる(後期中等教育課程)。リセには進学を目的にしたものと職業的専門知識を習得することを目的としたものがあり、第 2 学年、第 1 学年、テルミナルという順で進級する。 ・大学などの高等教育機関に進むにはバカロレアを受験し、合格することが条件となる。
	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・エコール・マテルネルと呼ばれる機関があり、義務化はされていないが、9 割以上の幼児が 2 年または 3 年の幼児教育を受ける。費用は公立の場合無料である。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の文部科学省に相当する機関として、青少年・国民教育・研究省が設置されているが、教育行政のみを扱う場合は通常「国民教育省」と呼ばれている。フランス全土は、その国民教育省を頂点に 28 の学区に分割されており、それぞれの学区には国民教育大臣が任命した学区長が配置され、同学区長が当該学区の小・中・高・大学を管轄している。 ・外国人の移住者が多い地域では、外国人のための適応学級があり、フランス語を集中的に学習することができる。
学 校 生 活	休業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み等休暇は地域によって異なる。
	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の進度の度合いによって飛び級や留年もあり得る。
	学校行事の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会・学芸会はない。
	給食	<ul style="list-style-type: none"> ・給食を食べさせるか、弁当持参にするかは保護者に一任されているが、給食を選択するが多い。 ・給食費は、国から援助があり、所得によって支払う額が違うが、満額払ってもそれほどの負担にはならない。 ・メニューは前菜、メインディッシュ、パンやパスタの穀類、デザート、飲み物等、フランス料理のフルコースである給食時間も 1 時間半から 2 時間となっている。
	チャイムや号令	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼はない。

	保護者の授業参観、保護者会、PTA	・授業参観はあまりない。
	子どもの一日	・放課後や休日には、多くの生徒がスポーツや音楽鑑賞、インターネット等をして過ごすほか、休日には映画鑑賞や旅行に出かける生徒もいる。
	その他	・公立小学校・中学校は教科書、文房具などはすべて無料で、毎年、文房具やランドセルを買うための費用が国から支給される。
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	・日本語の学習では、「八行」の子音が脱落してしまうことがある。
	その他	・日本に対しては、「独自の伝統文化を有する一方、先進的な技術を持っている国」と印象を持ち、日本のアニメや情報技術に対する関心が強い。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・かわさき教育だより 社会科見学「世界の給食」・・・・・・・・川崎市教育委員会
- ・日本語指導教材の開発・・・・・・・・・・・・・・・・井上恵子

ベトナム社会主義共和国		首都	ハノイ
 <p>赤は革命に流した戦士の血を、黄色の星の光は労働者・農民・知識人・青年の団結を表している。 中国語の「越南＝南方に建てた越の国」由来している。</p> <p>独立：1945/9/2 国連加盟：1977/9/20 政体：社会主義共和制</p>	国の概要	国土	面積 33万2,000 km ² (日本の88%) インドシナ半島東部を占める南北に細長い国で、国土の75%がアンナン山脈を中核とする山岳と高原地帯で、平野は北部のソンコン川と南部のメコン川下流に広大なデルタがある。
		人口	8,420万人
		言語	ベトナム語(公用語)、少数民族言語、フランス語、中国語
		通貨	ドン
		気候	北部は亜熱帯モンスーンで5月～6月が雨季、南部は熱帯モンスーンで8月～9月が雨季である。全般に年間を通して高温多湿である。
		民族	ベトナム人84%、小数山岳民族8%、対人2%、クメール人
		宗教	仏教、道教、カトリック、原始宗教、イスラム教、プロテスタント、カオダイ教、ホアハオ教
教育制度の概要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園(1ヵ月半～)、幼稚園(3～5歳)、小学校5年間(6～10歳)、中学校4年間(11～14歳)、高校3年間(15～17歳)、大学4～6年間である。 	
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 義務教育期間は、小学校1年生～5年生(6歳～10歳)中学校6年生～9年生(11歳～14歳)の9年間としている。 ・ ハノイなどの都市部では、高校までを含んだ12年間が普通教育として一般的である。 ・ 地方などの財政的に厳しいケースでは、小学校課程終了の第5学年までとなっている場合もある。 ・ 学区制がないため、評判のよい学校へ児童生徒が集中する。 	
	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校年度は9月5日から翌年の5月25日であるが、年によって多少の変動がある。 ・ 2学期制を採っていて、1学期は9月5日～1月10日、2学期は1月13日～5月25日となっている。 ・ 小学校は週休2日制(木・日曜日が休み)であるが中学校は日曜日のみ休みとなる。 ・ 授業は午前(6:45～11:30)、午後(12:30～17:15)の2部制が一般的である。人口が増え続けているので、学校の数も不足気味である。最近フルタイムの学校も都市部には出 	

	<p>来ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の単位時間は 45 分で、道徳や学級活動は時々行っている。 ・学校行事は少ない。 ・学年の最後には一斉テストがあって、卒業証書を受け取る。
義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・高校 3 年間（15~17 歳）、大学 4 年間（18~21 歳）、大学院は 22 歳以上となっている。 ・地方によって違うが、高校の卒業率がかなり高い。（80%） ・高校は 3 年間で基本だが、より専門的な技術を学ぶ（高専）の場合は 4 年程度かかる。いずれの学校へ行っても大学やカレッジに進学することが可能である。 ・大学はほとんどは国立大学で、多くはハノイやホーチミン市に集中している。経済的な事情から大学に進学できる人は限られている。最近はお金があれば入学できてしまうという私立大学も増えてきている。
就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前教育は義務ではない。3 歳で入園する幼稚園は 3 年間の教育課程である。1 クラスの園児数が多く教育環境はよくない。 ・一般に保育園を利用する人はあまり多くなく、ほとんどが祖父母のところに預ける。共働き家庭の場合は、保育園をよく利用している。 ・保育園は、週 6 日開園し、終日開園しているものから時間限定で午前午後の交代制を取るもの、さらに農繁期に受け入れるところなど様々なシステムがある。 ・メコンデルタの雨季には保護者がいなくなった家庭で、幼児が溺死する事例が多く、この時期には赤十字社などの支援を受けて、臨時の保育施設が設けられたりしている。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・大学も含めて、インフラ整備、教師の意識改革・学校の管理運営の自由化、学生の意識改革の 3 つの改革を掲げている。 ・教師の中には、給料だけでは生活できないので、家庭教師や塾の教師をして生活を支えている。 ・貧困問題が深刻で、街にはストリートチルドレンとよばれる子どもたちがいる。
休業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・6~8 月までの夏季休業だけある。
学級担任制、 教科担任制等	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校は 1 人の担任が全ての教科を担当する。 ・中学校は科目によって担任が違う。主任先生がいる。

学 校 生 活		<ul style="list-style-type: none"> ・全部の科目の成績に基づいて、通信簿を作成する。通信簿は学期の終わりに渡す。(2回)教科及び行動の記録を言葉(優・良・可のようなもの)で表す。1~10で採点する学校もある。
	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・大学だけ飛び級があるが、稀である。 ・高校までは、平均点数が50以下であれば、または道徳が良くなければ落第となる。 ・大学では、夏季休業の初めに科目を登録し、勉強して評価され、平均点数と単位で落第が決定する。
	教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校から大学まで外国語はほとんど英語で、他にフランス語や日本語を勉強する。 ・施設がないので、実験などはあまりない。 ・学校全体としてのクラブ活動もあるが、学年によっていろいろな活動をする。 ・高校と大学は自分の好きなスポーツを選ぶことができる。
	学校行事の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・国家の大きな行事にセレモニーを行う。 ・セレモニー以外の学校行事(文化祭・体育祭など)は自由参加である。 ・学校行事で代表として選抜され、地区大会・全国大会などと進むものもある。 ・修学旅行は小学校・中学校で、時々ある。
	給食	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食は希望者のみ購入する。 ・昔はあまりなかったが、給食設備の整った学校が増えてきている。 ・小学校は大部分、学校の食堂で食事をする。
	チャイムや号令	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイムは全ての授業の切れ目に鳴らされる。 ・号令はセレモニー以外はない。
	教室における行動様式等の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題は社会・理科などの調べ物、数学の問題などである。 ・夏季休業中は宿題を出すこともある。
	校則	<ul style="list-style-type: none"> ・学校によって違う。 ・ほとんどが白いシャツに緑のズボンを着用している。
	保護者の授業参観、保護者会、PTA	<ul style="list-style-type: none"> ・両親又は親戚が出席する。ない学校もある。
	子どもの一日その他	<ul style="list-style-type: none"> ・朝6時くらいに起床し、午前中か午後学校に行く。午前中の場合は、授業が終わったら、ほとんど家に帰って昼食をとる。

		<ul style="list-style-type: none"> ・放課後、掃除や食事の準備、後片付けなどを手伝っているが、都市部の学校では、勉強も忙しく、多くの生徒が休日も塾に通っている。 ・土曜日でも学校に行く。 ・中学校までの学校にはテーブル、椅子、黒板がある程度で、教具も視聴覚機器もなく、理科などの実験設備などがない学校が多い。
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教授言語はベトナム語のみである。 ・普段、敬語をつかうことは、あまりないが、「です」「ます」のような形をよく使う。 ・日本語の学習では、「ツ」と「ス」が混同してしまうことがある。
	宗教上の忌避事項	<ul style="list-style-type: none"> ・特にない。
	指による数え方 計算方法の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・親指から順に小指に向けて数える方法がある。 ・十まで数えたら指を使う。
	食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・主食は米である。
	交通規則の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・車は右側通行で、信号は青に変わる前にも、黄色になる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナムのじゃんけんは「ワン トゥー トイー」といい、日本と同じハンマー（ダム）とはさみ（ケオ）と葉（ラー）で勝負する。ハンマーははさみに勝って、はさみは葉に勝って、葉はハンマーにかつ。掛け声は「ワン トゥー トイー」と言い、「1, 2, 3」という意味である。 ・日本については、技術先進国として知られているほか、「ドラえもん」などのアニメに人気が集まっている。 	

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校事情・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・平凡社
- ・ベトナムの教育制度・・・・・・・・ベトナム カントー大学 akira yamasita
- ・おもしろジャンケン・・・・・・・・日本アセアンセンター
- ・世界の国・地域の紹介・・・・・・・・SIRA キッズ
- ・ベトナムとは・・・・・・・・日本アセアンセンター
- ・ベトナムの教育と子ども・・・・・・・・神田 嘉延
- ・日本語指導教材の開発・・・・・・・・井上恵子

・留学生より（2名）